

(様式第1号)

☐ 会議録 ☒ 会議要旨

会議の名称	令和5年度第1回 芦屋市環境計画策定委員会
日 時	令和6年1月25日(木) 14:00～16:00
場 所	芦屋市役所東館3階 中会議室
出席者	会 長 久 隆浩 副 会 長 秋本 久美子 委 員 池内 清 委 員 大脇 巧己 委 員 岡村 仁美 委 員 永瀬 隆一 委 員 浜橋 多恵子 委 員 三橋 弘宗 委 員 美濃 伸之 委 員 山口 容平
欠 席 者	委 員 飯嶋 香織 委 員 村上 順子
事 務 局	市民生活部長 大上 勉 環境課長 長良 晶子 保全係長 岡本 祐子 課 員 中田 博己 課 員 芝本 裕真
会議の公開	☒ 公開
傍 聴 者 数	0人(公開又は一部公開の場合に記入すること。)

1 会議次第

(1) 開会

(2) 会議

1) 委員紹介

2) 委員長及び副委員長の選出

3) 委員長及び副委員長の就任挨拶

4) 委員出席状況の報告

5) 議事

①第4次芦屋市環境計画の体系について

②計画策定スケジュールについて

(3) その他

(4) 閉会

2 提出資料

会議次第

芦屋市環境計画策定委員会 委員名簿

【資料1-1】「第4次芦屋市環境計画の体系について」

【資料１－２】「ヒアリング調査結果について」

【資料２】「第４次芦屋市環境計画策定スケジュール（案）」

３ 会議経過

開 会

事務局より開会挨拶及び提出資料確認

会 議

（１）委員紹介

（２）会長及び副会長の選出

事務局より久委員を会長に推薦する意見あり

<全員異議なし>

久委員より秋本委員を副会長に推薦する意見あり

<全員異議なし>

（３）会長及び副会長の就任挨拶

（４）委員出席状況の報告

事務局より、定数１２名中、１０名の出席につき会議成立と報告

（５）会議の公開・非公開の決定

出席委員の全員一致により会議及び会議録の公開を決定（傍聴希望者はなし）

議事

検討１）第４次芦屋市環境計画の体系について（目指す環境の姿、基本目標）

（久会長）

一つ目の議事について、事務局から説明をお願いします。

（事務局/岡本）

～資料①－１、資料①－２について説明～

（久会長）

第３次環境計画の５つの目標について、見直すのか、継続するのかという方向性をまずは議論をしたいと思いますがいかがでしょうか。

では、第４次環境計画の目標をつくる中で、他にご意見がありましたら、もう一度議論をし直す方向で進めたいと思います。

検討２）基本目標の設定について

（久会長）

続いての議題について、事務局より説明をお願いします。

(事務局/岡本)

～各基本目標について説明～

(久会長)

この五つの分野で良いのか、あるいは必要ない分野がある、さらにはこういう分野も必要ではないか、そういった議論ができれば良いと思います。

基本目標3は、芦屋市の一つの目玉で、景観の良さは芦屋市の非常に良いところです。他市に比べると、かなり質の良い景観をつくり上げていますので、これも何か新しく進めていくより、今の施策がうまく回っているかどうかというチェックになると思います。

一方で、基本目標4と5は、芦屋市に限らず、今、喫緊の問題ですので、この辺りを重点化していくお話でも結構ですが、いかがでしょうか。

(永瀬委員)

計画期間10年は決まっていて、今後も10年は変えない想定でよろしいですか。

(事務局/岡本)

基本は10年ですが、5年で一度中間の見直しを行います。

(久会長)

環境審議会では毎年、年次評価をしており、そのときに何か新しい出来事が起こったときは5年も待たずに改定をするかもしれませんが、おおむね10年後を見据えながら、一個一個どうしていくかというところで議論ができればと思いますがいかがでしょうか。

(永瀬委員)

現計画において、令和元年度の間接評価の際に変更した箇所はありましたか。

(事務局/岡本)

令和元年度の間接評価の際には、指標や評価方法、取組施策に関して見直し等を行い、昨年には基本目標4の「低炭素」を「脱炭素」に変更しております。

(久会長)

国が言葉遣いや内容を変える場合もありますので、そこで修正をするのもあるかと思います。SDGsは、この10年の間に2030年の目標を迎え、新しい目標をつくるかもしれませんので、芦屋市だけでなく、日本全体の状況や世界的な動向を見ながら修正することが必要だと思います。

(大脇委員)

環境審議会では、毎年、基本目標について評価されていると思いますが、基本目標 1 から 3 については、総合評価がほとんど B と C に対し、基本目標 4 と 5 は B から A、C から B と少し良くなっています。つまり、すでにやっていることを「できた」か「できない」だけの結果になっています。基本目標 4 と 5 は、芦屋市ではなく国や県からの話で結果としてできていると思います。今後の 10 年は大きく変動する可能性もあるため、一から全部作り直しても良いと思います。

(久会長)

評価が B や C になったことが必ずしも環境の状態が悪くなったわけではなく、良い環境の状態を維持することが新しい取組でないからということです。

現在の環境計画の中に随所で環境教育が入っていますが、それが五つの分野に分かれているため、一つの大きな柱としては見えてこないです。逆に、環境教育を柱にするという手もありますが、いかがでしょうか。

(池内委員)

基本目標 1 から 5 までは環境分野に関しての項目が網羅されていると思いますので、目標は変更しなくて良いと思います。中身を細かくどう変えていくかだと思いますので、現在の目標をもとに、それぞれの項目の分野ごとについて議論していくのが良いと思います。

(美濃委員)

環境計画は、どこまでの範疇にするのか難しいと思います。環境施策が他との関係性が深いため、どこまでを環境の中を含めるかについて議論する必要があると思います。

(久会長)

環境そのものが多様な役割をもって関連しており、ツリー構造では説明できないものです。いかに多様な機能をマトリックスやネットワーク図で表現し、そのつながりをつくるハブを重要視する方法もあると思います。

(永瀬委員)

地球温暖化に関して、防ぐというよりは適応や共存していく方が現実的に良いと思います。がどうでしょうか。

(久会長)

地球温暖化対策には、温室効果ガスの排出を抑える緩和策と、地球温暖化によって生じる問題に備える適応策に分かれると思いますが、この部分について山口委員、何かご意見いただけますか。

(山口委員)

国際的には、地球の平均気温の上昇を産業革命前と比較して1.5度程度までに抑えることが決まっています。そのために、2050年カーボンニュートラルを目標として掲げています。今回の計画では、「地球温暖化を防ぐ」という表現の変更は必要だと思いますが、そのための対策や取組みを入れることは適切かなと考えています。

(永瀬委員)

温室効果ガスの排出を減らすための取組みをいかに身近なこととして意識してもらえるかという表現にする必要があると思います。

(久会長)

今後、各専門部会で分野の目標や内容について議論していただき、そこで出た意見を最終的に集約して進めていきたいと思っています。

(永瀬委員)

専門部会に分かれるにしても、分野によっては意見が大きく分かれてしまう懸念があります。

(事務局/岡本)

専門部会では、脱炭素や循環型社会、都市環境、自然環境などの分野に、それぞれ3、4名のグループに分かれて課題の抽出や具体的な方向性を議論していただき、その後、大きな方向性について策定委員会を通して進めていくことを想定しております。

(久会長)

環境問題というのは、見方によって相矛盾することがいつも起こります。一方的に議論するのではなく、他方も見ながら議論する必要がありますので、専門部会での議論を策定委員会に持ち帰る方法でよろしいでしょうか。

(永瀬委員)

事業者代表である商工会の会長としての役割とは、市内の事業者に取組みの推進を啓発する立場だと思います。

ただ、専門部会の全てに参加となると負担ですが、芦屋市において事業者が「これはしなくていい」という分野はないと思います。

(久会長)

どの部会に入りたいか調査し、お一人おひとりの状況や興味に合わせて選んでいただければと思います。策定委員会では、全体を見ていきますので、そこでご意見を賜る機会はあると思いますのでよろしくお願いいたします。

(大脇委員)

専門部会に分かれる前に、最低限、芦屋市は環境に対して、どういう方向で考えていくのかという共通認識を持つ必要があると思います。芦屋市として何を推進するかという共通のものがなければ、バラバラになってしまうと思います。

(永瀬委員)

「芦屋市ならではの」が必要となると思います。他市のものを真似するよりも、芦屋市の歴史やまちなみを捉えて、実行したいができないことのジレンマを埋めることが必要だと思います。

芦屋市は「文化住宅都市」で、市民と事業者が共存して行政と話し合うことが必要だと思います。

(事務局/岡本)

専門部会に分かれていただく中で、常に「経済的側面」、「社会的側面」、「芦屋ならではの」という側面について、共通の方向性を持ちながらご議論いただくと、それを集約したときに活かすことが出来ると考えております。

(久会長)

私は、「環境にどのように負荷を与えているかということを認識しながら、どこまで自分ができるかを考えていくことが、本当の意味での環境配慮じゃないですか」と、いつも申し上げています。そういう意味では、先ほど永瀬委員さんを中心にご指摘いただいているように、本当に着実に実現できるような内容にしていきたいというお話だと思います。そういう意味で、非常に重要な観点かなと思います。

さらに、大脇委員がご指摘の共通認識については、資料①-1の「目指す環境の姿」に関する議論になると思います。今の流れから、ここを議論させていただければと思います。

検討3) 目指す環境の姿について

(久会長)

次の議題について、事務局より説明をお願いします。

(事務局/岡本)

～資料の説明～

(久会長)

ありがとうございます。ここでのキーワードは「すこやかな」と「誇れる」だと思います。環境の状態を人も環境もすこやかな状態であるという表現になっており、さらに、それを一人ひとりの市民が誇りに思い発信ができる、こういうまちを目指そうというキャッチフレーズでつくらせていただいています。これを継続するのか、あるいは第4環境次計画で変えていくのか、これも議論の中で最終的に集約しながら一つの言葉に紡いでいけば良いのかなと思います。先ほど「芦屋ならでは」という言葉が出ましたが、「芦屋らしい環境」とか、他と比べてこういう特徴があるのかなど、その辺りで議論できればと思います。

(池内委員)

芦屋というのは、山、海、川があり、その中に街があります。これだけそろっているまちは、他にはないのではないかと感じています。我々、森の会2001でやっているのは、いかに森と人が一緒に生活できるようにしていけるのか、森をいかに活用して自然をそのまま残して、人が自然を楽しめるようにできるかです。それはまちの中でも同じで、まちの中に家が建って住めば良いというのではなく、まちの中に緑があって潤いのある、そういうまちをつくれれば良いのかなと思います。

(三橋委員)

この計画を全般的に見て、強弱がついていないと思いました。芦屋の将来で一番のリスクは何かというのを挙げ、それをここで解決するというのが基本だと思うのですが、その部分が見えにくいと思います。それはリスクを回避する目的でもあるし、今、池内さんがおっしゃられたように、芦屋の魅力でユニークなものを前に出すという意味でも、基本目標を決める前に考えないといけないと思います。

本当に実践できること、目標とする数字、将来リスクとの関係、国の大きい目標と比べて市の目標をどうするのかを整理し直した方が良いと思います。

例えば、まちの中で緑のあるエリアをどのように設定するのか、環境教育をどのように位置づけて具体的な施策を作って進めていくのかなどです。

国の環境基本計画では、生物多様性、脱炭素、リサイクルの三つを柱にあげており、小さいことでも良いので、その視点で計画をつくった方が良いと思います。また、現在の計画では横

系しかないので、縦糸を目標として、縦糸と横糸の構図が良いと思います。縦糸の一つは環境教育がいいと思います。そういう意味では、目標が5つでも、6つでも、3つでも何でも良いと思いますが、重要なのは何をやるかのメリハリをつけることだと思います。何か議題の論点とずれているかもしれませんが、そういうふうに思いました。

(久会長)

ありがとうございます。今のご指摘を入れようとする、重点施策みたいなものを表に出していくというのも一つかなと思いました。素案として必要な部分は書き、さらにもう少し組み合わせによって、重点施策として何をどう展開するのかを考えていくというのが、今のご指摘であるかと思います。

(永瀬委員)

「芦屋ならでは」という言葉がよく使われますが、私は「芦屋らしさ」とか「芦屋ブランド」という言葉が好きではなく、「芦屋らしさ」についての認識は、住んでいるエリアや人によって全く違うと思います。山手、平地、埋立地の大きく3つのエリアで考えていくと良いと思います。

(久会長)

芦屋での教育面の特徴の一つとして、コミュニティスクール（コミスク）がしっかりと伝統のある活動をされています。コミスクの話と環境教育をどう考えていくかですね。そうすると、芦屋の今までの蓄積の上で、他のところではなかなか展開できない環境づくりができたりする気がしますので、その辺りをまたお教えいただければと思います。

(永瀬会長)

今回の委員の中にコミスクの方はおられません、今後コミスクの方のご意見を聞くことはあるのですか。

(事務局/岡本)

環境審議会にコミスクの委員の方がおられますので、審議会でご意見を聞くことができると考えております。

(山口委員)

「環境の姿」についてですが、今、議論のあったことも一応、カバーできている言葉かなと思いましたので、このままでも構わないと考えています。

ただ「すこやかな」「共生」「誇れる」というものの中身について、どう具体的に考えるかが

すごく大事だと思います。資料の①－１を見させていただくと、例えば「身近に地域の環境を考える」や「地球環境を考える」も、結局「考える」で解決しようとはしてなくて、考えれば良いというところで留まっています。１番目と４番目の生態系や気候変動については、２０５０年のビジョンが明確に出ていて、２０３０年までに解決するための仕組みを確立するところまでいくというのが目標になっていると思います。防ぐのではなくて解決するというのが、基本的なゴールになるはずです。次の計画はその期間に入っていると思いますので、将来像をどこに設定して、現在の状態とどれだけの差があって、実際にそれをどう埋めていくのかが、計画の中に書かれていることが理想だと思います。

ただ一方で、そこに書かれているのに何もやってないと全く意味のない計画になりますので、そうではないところに落とすというのが重要なと思います。

もう一つ、縦軸、横軸というお話がありましたけれども、もう一つ加えるのであれば、「価値創造」かなと思いました。２番目と３番目の話で、価値を落とさず、もっと良くしていくのだと思うのですが、そういう観点が５つの領域を横軸の役割になるかなと思います。

(久会長)

ありがとうございます。私も申し上げたマトリックスの縦をどうしていくか意識しながら議論をしていくことが大切だと思います。また、先ほどご意見がありましたように、実行性をどうするか、きちんと見据えながら各専門部会でも議論ができればと思います。

(三橋委員)

「価値創造」私も重要だと思います。

生態系についてですが、重要なのは、安定的に水が供給されることです。森づくりは自分たちの安心安全のためであると、教育などによってみんなが知っている状態になっていけば良いのかなと思いました。

(秋本委員)

業者や会社、行政についての話がありましたが、やはり市民、子どもたちを意識してほしいと思います。環境について小学校では校外学習をしています。そこで終わってしまって地域や家庭とつながっていないと思います。自然環境、教育環境、家庭環境があるので、学校が終わってから地域のコミュニティと一緒にごみ拾いをするとスタンプがもらえて、それを貯めることでゴミ袋やお花など何か簡単なものをもらえれば、子どもたちもうれしいと思います。それと芦屋らしい建造物や文化について、税金だけに頼るのではなく、SNSを使って自分たちで発信して、何かを生み出していく、そういう仕組みを考えて、何か組み立てられないかなと思いました。

(久会長)

改めてこのキャッチフレーズを見ると、時代的なつながりがなくて、現段階の状況を表していると思います。例えば、すこやかな関わりをここにつなげるとか、次世代へ受け渡していく、あるいは次世代だけじゃなくて、事業者と市民などいろいろな主体がつながっていく、そういう言葉があると、もう少しダイナミックさが出てくるのかなと思いました。「つなげる」なのか「つながる」なのか分からないですけども、ちょっと入れてみて、また次回どうするか検討させていただいたら良いかなと思います。

(浜橋委員)

芦屋市は、山と海があり、コンパクトで人と自然がすごく近いところにあるので、人がきちんと関わって保全していくのが大切だと思いますが、それがどのラインで実現することが良いのか分からないときがあります。

(久会長)

芦屋市は、どちらかというと歴史や文化に強い美術館や博物館があると思いますので、例えば、環境に詳しい学芸員さんに加わっていただくことで自然環境を後押ししていくような施設の機能強化ができれば良いのではないかと思います。

(岡村委員)

「人と環境のすこやかな関わり～願いを込めています」までの文章がすごく長い一文になっていて、何が主語なのか、どこからどこにかかっているのか分かりにくいと思います。もう少し短い文章で3つぐらいに分けたら、分かりやすいと思います。子どもでも分かるような短い文章にしたほうが良いかなと思いました。

(永瀬委員)

どこかで市長の意向を入れることは可能ですか。公約の一つに環境問題のこともお話されていたので、この会にご出席されなくても、何かご意見をもらえたら良いと思います。

(事務局/長良)

必要に応じて検討させていただきたいと思います。

計画策定スケジュールについて

(久会長)

続いての議題について、事務局から説明をお願いします。

(事務局/岡本)

～今後のスケジュールについて説明～

(久会長)

それでは、第1回の環境計画策定委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

以 上